



# 岡山県立瀬戸高校

▶ 設立：1909年 ▶ 種別：全日制／普通科／共学 ▶ 生徒数：1学年 約160人 ▶ 校訓は「尚学・自主・健康・協調」  
▶ イノベーションを起こす「エージェンシー」（責任を持って社会変革を実現する力）の育成をめざす  
▶ 卒業生の進路状況 大学・短大…91%、専門学校…7%、就職・公務員…2%

## 3年間を通じて、探究学習を実施

「生徒の夢をつぶさない」ことを進路指導では大切にしています。年内入試は、学力だけでは合格が微妙な第1志望の大学に、大学で伸びる力となる経験や意欲などを含めた「学力+α」の力で挑戦できる入試です。生徒の夢を実現する手段として、私の学年では年内入試の受験を生徒に積極的に勧めました。

年内入試に必要な学力以外の「+α」の力を育てるため、本校では探究学習に力を入れています。

本校の探究学習\*は、3年間を通じたプログラムです。1、2年次には、グループでの課題研究を3回実施します。その中で生徒は、社会への問題意識を深め、行動力や表現力などを身に付けます。3年の1学期には、進学や就職に向けて、志望理由書などの作成に取り組みます。その中で生徒は、自分の志望を言語化します。

これらの活動は、教員にとっても生徒理解を深める機会になっています。課題研究の指導を通して教員は、「この生徒はグループワークでリーダーシップが取れる」「この生徒はプレゼンテーションが得意」など、それぞれの生徒の特性を把握します。これを基に、高2・2月に学年で進路検討会を開き、生徒の強みが最大限発揮されるのは年内入試か、それとも一般選抜かといった大まかな受験戦略を検討します。また、志望理由書などを教員が添削する中で、志望の軸となる生徒のキャリアプランを両者で共有します。ここでの意思疎通は、それ以降の

\*瀬戸高校の探究学習については32ページで詳しく紹介しています

指導の土台となるものです。高3・7月からは、年内入試希望者に対する面接や小論文の入試対策を開始します。

生徒には、「これは大学の学びにつながるものだから、単なる入試対策で終わらせず、一生懸命がんばろう」と話します。小論文はレポート作成、グループ討議はゼミの活動で役立つはず。入試対策を通して生徒には、大学での学びに対応できるようになってほしいと考えています。

## 評価の内容についても情報提供を

年内入試のことを私は、生徒が自分を見つめ直す勉強の一環として捉えています。そのため大学には、合否の結果だけでなく、評価の内容などについても、高校に対してフィードバックしてもらいたい。ある大学の推薦入試を受けた生徒は、面接が終わり部屋を出る時に、面接官が「すごいね」と言った声を聞いたそうです。結果は不合格でしたが、その生徒は「あのひと言で、自分がこれまでがんばってきたことは間違っていなかったと感じた」と話していました。

年内入試を受験する生徒は、第1志望の大学を受験します。その大学から、自分の何が認められたのか、何が足りないと思われたのかを伝えてもらうことは、生徒にとって大きな自信や励み、学びになります。高校にとっても、自分たちの指導を見直し、充実させる貴重な手掛かりとなるものです。合否の結果だけでなく、評価に関する情報提供を、もっと大学にはお願いしたいです。

目利きに聞く！

「学力+α」の力を  
探究学習を通して育成

前3学年主任  
ふる いち ひで はる  
**古市秀治**

**年内入試の進学実績(2019年)** 国公立大／岡山大学、広島大学、山口大学、島根大学、香川大学、愛媛大学、信州大学、岡山県立大学など  
私立大／立命館大学、就実大学、岡山理科大学、川崎医療福祉大学、ノートルダム清心女子大学など

|                                      | 高1  | 高2  | 高3                                      |                          |                             |                            |
|--------------------------------------|---|---|---|--------------------------|-----------------------------|----------------------------|
| <b>年内入試指導スケジュール</b><br>(受験校の決定～受験対策) | 4月～<br>・探究学習の中で生徒の志望や行動力などを育成   | 2月<br>・生徒一人ひとりについて受験戦略を検討   | 4月<br>・進路希望調査<br>・志望理由書などの作成<br>(全生徒対象) | 6月<br>・生徒の受験指導の方向性を確認・決定 | 7月～<br>・年内入試希望者の面接、小論文指導を開始 | 1月<br>・高校学習の集大成として共通テストを受験 |
| <b>年内入試指導のポイント</b>                   | ▶ 探究学習等の活動をベースに生徒一人ひとりの受験戦略を検討。個別進路相談も随時実施<br>▶ 志望理由書の作成指導を通して、生徒のキャリアプランを生徒と教員で共有。指導ノウハウは校内の研修会で共有 |   |   |                          |                             |                            |
| <b>大学への期待</b>                        | <b>年内入試</b>   | ▶ 年内入試は学力+α。「α=大学で伸びる力」だと捉え、その力を入試でしっかり評価してほしい<br>▶ 生徒のどこを見ているのか、評価の観点などを示してほしい             |   |                          |                             |                            |
|                                      | <b>高大接続</b>   | ▶ 生徒にリアルな大学の雰囲気、生の講義を体験させたい<br>▶ 生徒の志望は「学問」が切り口。「大学」ではなく学会など「学問」で情報提供を                      |   |                          |                             |                            |
|                                      | <b>情報提供</b>   | ▶ 「合格者のどこを評価したのか」「不合格者はどこが足りていなかったのか」などのフィードバック<br>▶ 指導の参考にするため、面接の質問内容やグループ討議等のテーマを公表してほしい |   |                          |                             |                            |

取材・文／本間学 撮影／木村琢磨